

2019年度 事業所職員向け 児童発達支援自己評価表集計（担当職員 9名）

親子教室あいあい

	項目	はい (人)	いいえ (人)	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	0	・利用定員に対して、十分なスペースが確保されてある。
	② 職員の配置数は適切であるか	9	0	・児童の利用定員に対し、基準以上の配置が成されている。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	2	・階段の段差が大きく、バリアフリー化ができていない箇所がある。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	0	・清潔で心地よく過ごせる環境整備を行っている。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	8	1	・業務の改善に向けて職員間で現状の課題について話し合う機会を設けている。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8	1	・保護者からの評価を実施し、内容について職員間で共有し改善に努めている。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9	0	・ホームページにて自己評価表を公開している。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	7	・第三者による外部評価を実施できていない。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9	0	・療育に必要な研修にはできるだけ参加している。 ・研修報告を提出し、内容を振り返り、職員間で共有している。

適切な 支援の 提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	9	0	・アセスメントを行い、子どもや保護者のニーズや課題について分析し、児童発達支援計画に反映している。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9	0	・アセスメントツールを使用していない。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	0	・ガイドラインの支援内容を考察し、具体的な支援内容を設定している。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9	0	・支援計画に沿った支援を行えているかモニタリングを通して確認を行っている。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	0	・職員会議やグループ担当者の話し合い等を通して、活動内容について検討や提案を行っている。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	0	・季節によって似た活動になるが、発達の状況に合わせて活動内容を工夫している。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	9	0	・個々に発達検査を実施し、子どもの発達状況を踏まえて、支援計画を作成している。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9	0	・朝礼の時間に、その日の支援の内容や役割分担について確認をしている。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	9	0	・職員の勤務時間が異なり、全員で振り返りを行うことは難しいが、職員会議で日々の気付きなど話し合う機会を設けている。 ・支援終了後、その日の行われた支援の振り返りを行い子どもの様子や支援内容の課題について職員間で共有している。
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	0	・グループ日誌に支援内容を記録し、支援の改善に繋げている。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	9	0	・6ヶ月ごとにモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しや必要性を判断している。	

関係	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9	0	・ケース担当者又は、児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	9	0	・健診後や相談後、療育の必要性のある子どもたちの支援を連携しながら行っている。 ・子育て支援課の職員の研修を事業所で受け入れている。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			

… 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	9	0	・併行通園している保育所や認定こども園、幼稚園を訪問し連携を行い、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。 ・保育所等訪問支援実施している。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	9	0	・就学前に小学校に出向き、支援内容の情報共有と相互理解を図っている。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	9	0	・自立支援協議会などを通して連携や研修を行っている。 ・広島県東部幼児通園療育機関協議会に所属し連携を図り、助言や研修を受けている。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	8	・機会を設けていない。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	9	0	・自立支援協議会へは、児童発達支援管理責任者が参加している。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9	0	・保護者支援の時間に、その日の子どもの状況や子どもの姿から見えてくる課題について話し合う機会を作っている。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	2	7	・ペアレント・トレーニングについての研修に参加していないため支援を実施できていないが、親子参加のグループでは、遊びを通して親子の関わり方や声掛けの内容について支援を図っている。 ・プログラム化されて行動重視なものもあり、すべての子どもに当てはまらないので難しいと感じる。

保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9	0	・重要事項、運営規程の説明を行っている。 ・加算等による利用料の変更や利用負担がある場合はその都度説明を行い同意を得ている。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	9	0	・ガイドラインに基づいた児童発達支援計画を6か月ごとに作成し、保護者に説明を行い同意を得ている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	0	・6か月毎のモニタリング、個々の発達検査等を実施し、子育ての悩み等に対する相談に応じている。 ・困り感や悩み等がある場合は、個々に相談に応じている。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	8	・父母会の活動支援は行っていない。 ・保護者参加のため、保護者同士で話をする機会がある。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	0	・参加日には個別に声掛けを行い、話しやすい状況を整えている。相談にはすぐに応じれる体制を整備している。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9	0	・3ヶ月ごとに各グループのお便りを作成し、活動内容や目的を記載し、配布している。
	③⑱	個人情報に十分注意しているか	9	0	・プライバシーや個人情報の保護について十分注意している。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	0	・意思の疎通ができていないかの確認を図っている。
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	9	・地域の方を招待することはないが、地域の資源を活用し活動を行っている。

非 常 時 等 の 対 応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8	1	・緊急時対応マニュアル、感染症の対応マニュアルを作成している。 ・防犯マニュアルは作成できていない為今後検討する予定である。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	0	・避難訓練は年2回実施している。年に1回は総合防災訓練を行い消防署員による指導を受けている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	9	0	・アセスメントを行い子どもの状況を把握している。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9	0	・指示書の提示により確認を行っている。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9	0	・ヒヤリハットを作成し、事業所内で共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	9	0	・人権研修や虐待防止の研修に参加している。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	9	0	・身体拘束に関する説明を行い同意を得ている。

【全体としての改善目標】

① 環境整備の充実⇒建物のバリアフリー化は、難しい状況があるが、安心・安全に過ごすことができるよう環境整備を整えていく。感覚統合を取り入れ、感覚統合器具を整えていく。床清掃を業者に依頼し、生活空間を心地よく過ごすことができるよう配慮する。

② 療育内容の充実と専門性の向上。⇒活動内容が固定化しないように、子どもに合った活動内容を取り組めるよう専門性を高めていく。外部講師による個別相談や療育指導を継続して実施する。研修会への参加、勉強会を通して専門性の向上を図る。

③ 保護者支援の充実⇒保護者支援の時間に、発達についての理解を深めていけるよう、発達についての書籍を活用していく。保護者間で交流を図れるよう、職員が話しやすい雰囲気作りを図る。